

平成 19 年 3 月 22 日 ( 木 )	岐阜経済記者クラブ配付資料	
担 当 部 署	担当者	電 話
( 財 ) 岐阜県産業経済振興センター	大洞 勝	058-277-1082

## 「岐阜県プラスチック産業の現状と展望」調査研究結果

### 調査研究の趣旨

繊維・アパレルや陶磁器などの地場産業が低迷する中で、堅調な業績を保っているプラスチック産業について、現状を分析し今後の展望を探る。

### 調査研究の方法

本調査研究の中心をなすのは、県内のプラスチック製品製造企業へのアンケート調査であるが、調査研究の全体像は次のとおり。



アンケート調査：567企業に郵送し回収した調査票は131（回答率23.1％）

### 調査研究結果のポイント

( 1 ) 統計資料の調査より [ 出所：工業統計調査（従業者4人以上の事業所） ]

岐阜県の製造業全体に占めるプラスチック産業の割合を出荷額ベースで見ると、平成元年に5.4%であったのが、6年は5.8%、11年は6.7%と着実に増加しており、16年は7.5%を占め、製造業24業種中5位と高位にある。全国の製造業全体に占めるプラスチック産業の割合は3.7%で24業種中11位であるのに比べると、岐阜県は全国の倍の割合を占めており、本県においてプラスチック産業が盛んであることがわかる。

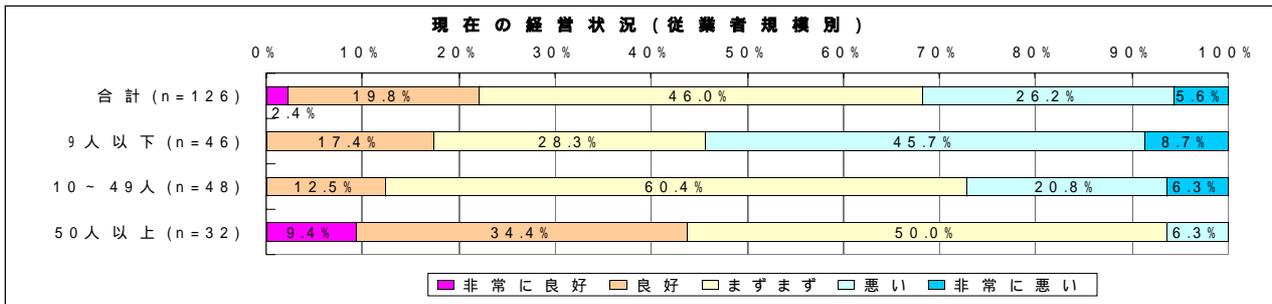
なお、平成元年には全国のプラスチック産業に占める岐阜県の割合は2.8%（13位）であったものが、15年後の平成16年には3.5%（10位）とその地位を上げている。

( 2 ) アンケート調査より

#### 【現在の経営状況】

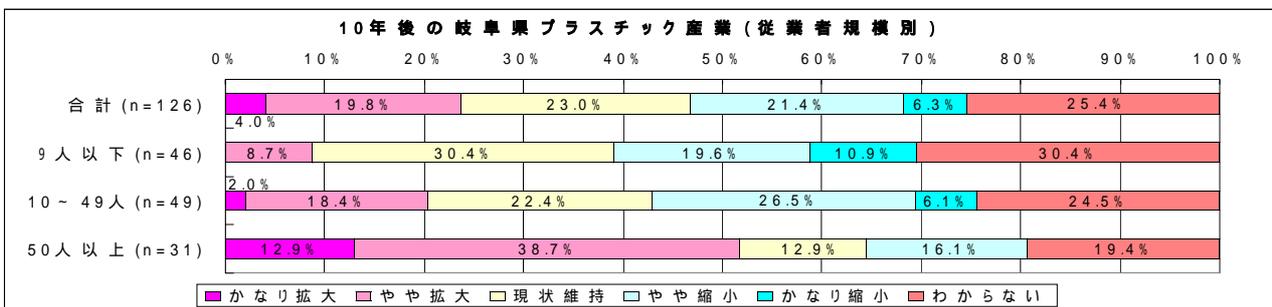
現在の経営状況を経営者がどのように認識しているかを尋ねたところ、全体では「非常に良好」、「良好」、「まずまず」を合計した割合は68.2%であり、プラスチック産業は概ね好調であると言える。

ところが、これを従業者規模別にみると、階層間格差が明瞭に現れ、小零細規模層の経営の苦しさが伝わってくる。従業者数「9人以下」ではその割合は45.7%と半数に満たず、「悪い」と「非常に悪い」の合計（54.4%）の方が上回っている。一方、「50人以上」では「非常に悪い」とする企業はなく、「悪い」とする企業が6.3%あるに過ぎない。



**【業界の将来見通し】**

10年後の岐阜県プラスチック産業の見通しについて尋ねたところ、全体では「拡大」とみるのは23.8%と少数で、「縮小」の27.7%を下回っており、岐阜県プラスチック産業の将来を楽観視する向きは少ない。



**(3) アンケート調査などからみえてくる岐阜県プラスチック産業の平均的な企業像**

昭和40年代にプラスチック産業の将来性を信じて美濃市で創業した。現在の従業員数は15人で、売上は年々増加傾向にあり、経営状況はまずまずと言える。

県内と愛知県のプラスチック企業から自動車部品の製造を受注しており、自社で射出成形する他、一部は同業者に外注している。強みは「品質」にあり、「品質の向上」に最も重点を置いている。現在の一番の課題は、原材料の高騰に伴う利益率の低下であるが、製品価格への転嫁が難しいため経費の削減や製造工程の工夫などに努めている。今後も売り上げはやや増加していくとみており、将来的には子供に継がせたいと考えている。

**(4) 企業に求められる取り組み**

消費者ニーズを取り込んだ新しいデザインや機能を付加した新製品等の開発

多品種少量生産トレンドへの対応（品質管理、製品納期短縮、コスト管理）

EUのRoHS指令への対応（素材評価システムの確立）

環境問題への取り組み（プラスチックのリサイクル、生分解プラスチック） など

**担当者コメント**

統計資料で従業員数や製造品出荷額の推移などをみると、本県のプラスチック産業は非常に好調なように見える。アンケート調査結果からみても、全体としては好調であると言えるものの、小零細規模層には経営状況が厳しい企業も多いことに留意する必要があるだろう。